



魔法の言葉“まぜればごみ わければ資源”

リサイクル意識の種をまく

今年度から、市内の小中学校を対象にごみとリサイクル、食品ロスをテーマとした出前講座を始めました。SDGsの12番目の目標である「つくる責任つかう責任」に触れながら、子どもたち自身がごみの減量とリサイクルについて考え、行動してもらえるように、ごみの分別や4Rの大切さを伝えています。

また、自治会や市民団体を中心に実施している出前行政講座も継続的に開催し、さらなるリサイクル意識の向上を呼び掛けています。

～ 受講した小学生の感想 ～

使い捨てカイロが燃えるごみだとは知らなくて驚きました。市の人が言っていた『まぜればごみ、わければ資源』の合言葉が印象に残っています。ごみを少しでも減らすために、物を長く大切に使うことを心掛けたいです。



六郷小学校4年1組
後藤圭次郎さん(牛淵)



小笠北小学校4年1組
鈴木美紗樹さん(志茂組)

リサイクルすることで、他の人がまた使うことができることが印象に残っています。家でもできることを教えてもらったので、ご飯を残さないように食べきれ的分だけよそうようにします。

日常生活を送る上で当たり前に出るごみですが、近年そのあり方は「捨てるもの」から「再資源化するもの」へと変わっています。ごみを出す時にはまず「リサイクルできるかどうか」を考えてみてください。正しく分別することで、限りある資源を有効活用することができます。

また、10月は「食品ロス削減月間」です。食品ロスの削減もごみの減量につながります。10月から給食だよりに環境推進課の食品ロスに関するコラムを掲載してもらい、子どもたちにも給食の食べ残しが少なくなるよう呼び掛けています。市民の皆さんも、食べられるのに捨てられてしまう食品を減らすよう、買い物や調理、食事の際に意識してみてください。「すぐ食べるものはてまえから」、今日からぜひ取り組みをお願いします。

今日からできる4R



市環境推進課
主任主査 松本彩さん

分別とリサイクルに関心をもって

ごみの減量は、地域にとっても重要な課題です。県内で2番目にごみの量が少ないまちに住んでいることはとても誇らしく、市民の皆さんのごみ減量意識の表れだと思います。しかし、リサイクルできるはずの雑がみが燃えるごみに入っていたりするなど、まだまだ分別をする余地が残されています。ごみの出し方のルールや分別が守られていないと、ごみステーションを管理する自治会役員の人がなどが再分別をするなどの手間が増え、資源物の収集日には、地域の人が声を掛け合い、正しく分別しようとする姿が見られます。今後も、こうした日常を積み重ねながら、市民一人ひとりの意識をさらに高め、自分たちの住むまちをきれいなまま次の世代へ引き継ぐために、分別とリサイクルを継続していきましょう。



市環境衛生自治推進協議会
会長 酒井幸寛さん(和田)